

福岡・近畿パーキンソン病研究の結果 緑茶摂取とパーキンソン病リスクとの関連

背景：欧米の研究でコーヒーとカフェイン摂取はパーキンソン病に予防的です。東洋のエビデンスはほとんどなく、緑茶との関連は調べられていません。

方法：症例群は UK Parkinson's Disease Society Brain Bank のパーキンソン病診断基準に基づき発症後 6 年未満の 249 名の患者です。福岡大学、大阪市立大学、宇多野病院、京都大学、京都市立病院、九州大学、久留米大学、大牟田病院、刀根山病院、南京都病院、和歌山県立医科大学でリクルートしました。対照群は福岡大学、大阪市立大学、宇多野病院に入院中もしくは通院中の患者で、神経変性疾患と診断されていない 368 名としました。性別、年齢、居住地域、喫煙、教育歴、BMI とコレステロール、グリセミック・インデックス、ビタミン E、 β カロテン、ビタミン B6、鉄及びアルコール摂取を補正しました。

結果：コーヒー、紅茶、緑茶、カフェイン摂取が多いほど、パーキンソン病のリスクは有意に低下しました。

		Quartile				P for trend
		1 (lowest)	2	3	4 (highest)	
コーヒー	摂取量(g/日)	< 26	26-< 122	122-< 243	\geq 243	
	補正 OR	1.00	0.92	0.80	0.52	0.02
	(95% CI)		(0.58-1.44)	(0.50-1.28)	(0.30-0.90)	
紅茶	摂取量(g/日)	< -0.5	-0.5-< 8.7	8.7-< 20.8	\geq 20.8	
	補正 OR	1.00	1.13	0.61	0.58	0.005
	(95% CI)		(0.71-1.82)	(0.36-1.02)	(0.35-0.97)	
緑茶	摂取量(g/日)	< 295	295-< 492	492-< 840	\geq 840	
	補正 OR	1.00	0.63	0.73	0.59	0.08
	(95% CI)		(0.39-1.02)	(0.45-1.18)	(0.35-0.995)	
カフェイン	摂取量(mg/日)	< 194	194-< 315	315-< 496	\geq 496	
	補正 OR	1.00	0.76	0.64	0.46	0.003
	(95% CI)		(0.48-1.21)	(0.40-1.04)	(0.27-0.78)	

結論：日本人においてコーヒー、紅茶、緑茶、カフェイン摂取はパーキンソン病のリスク低下と関連しているのかもしれませんが。

出典： Tanaka K, Miyake Y, Fukushima W, Sasaki S, Kiyohara C, Tsuboi Y, Yamada T, Oeda T, Miki T, Kawamura N, Sakae N, Fukuyama H, Hirota Y, Nagai M, Fukuoka Kinki Parkinson's Disease Study Group. Intake of Japanese and Chinese teas reduces risk of Parkinson's disease. *Parkinsonism Relat Disord.* 2011; 17: 446-450.